

合格体験記（1）

受験を終えて

大阪大学外国語学部外国語学科ベトナム語専攻

（担任のコメント）早い段階で第一志望を設定し、夢の実現のために努力を始めた生徒である。方向性が全くぶれず、最後まで自分を信じて頑張った成果が合格のカギとなった。地道な努力を積み上げていく姿は他の模範でもあった。

受験は長いようであっという間に終わった。あと何日というカウントダウンが始まると本当にあっという間だった。私は、受験の直前になるまで、家で集中して勉強できなかったため、塾の自習室や県図書などで学習時間を確保した。目標を明確に持って頑張る人たちの存在や、クラスの雰囲気など、勉強しやすい環境に恵まれたことが本当に良かったと思う。

私は、2年の夏にオープンスクールに行って、ずっと第一志望にしていた学校があったが、センター試験で失敗して、目標点に全く届かなかった。浪人することは考えていなかったため、他の大学を受験することにした。県外に出たいという気持ちと、前期は挑戦したいという気持ちと、二次試験の配点が高く、逆転の可能性があるということを考えて受験校を決定した。センター試験のときは変な緊張をしてしまったが、二次試験のときは、正直無理だと思っていたので、ほとんど緊張しないで落ち着いて問題を解くことができたことが良かったのだと思う。私の親でさえ合格を信じていなかったが、合格と分かったときは、本当に嬉しくて、応援してくれた人すべてに感謝したい気持ちになった。最後まで諦めないことが大事だという言葉の意味を痛感した。

最後まで根気強く指導して下さいました先生方のおかげで合格できたので、信頼できる先生のおっしゃることを信じて頑張ってください。テレビ・スマホ・惰眠は受験生の天敵なので、本当に気をつけて下さい。

合格体験記（2）

受験を終えて

広島大学工学部第二類（電気・電子・システム・情報系）

（担任のコメント）着実な取り組みを通じて、二次力をつけた。自分の信念をしっかりと持って、常に安定した努力を積み重ねていった生徒である。

今、受験勉強をしていた頃を思い出して思うことは、「頑張った良かった」です。自分の中では、必死に勉強したという思いがありました。二次試験が終わった後、「これで自分が合格できていなかったら、他に誰が合格するんだ？」という思いでした。勉強量は、成績に拘わらず、自信に繋がります。自身があれば試験本番で緊張することなく、落ち着いて問題が解けます。自分の目標に向かって、ひたすら勉強しましょう。

最後に、終わりよければすべてよしという言葉がありますが、本当に大事なものは、結果ではなく過程だと思います。ととえ、必死に勉強した結果大学に落ちたとしても、その過程は決して無駄ではないと思います。残り少ない高校生活の1日1日を大切に、有意義に過ごして下さい。

ありがとう中央 49 期

広島大学文学部人文学科

（担任のコメント）確固たる目標と信念を持ち、第一志望校に見事に合格した生徒である。穏やかで、素直に耳を傾けるコトノできる生徒であった。センター試験の不利な判定からの合格は、日々の努力の賜である。

広島大学。二年生の頃から漠然と抱いていた志望校。3月7日、あこがれの広島大学生になることができ、嬉しさのあまり涙があふれた。僕は、3年生の4月から受験を意識し、勉強を始めた。部活動の後、図書館や学習室を利用し、宿題以外の自習をやり始めた。僕は水泳部に所属していた。周りの部員よりタイムが縮まらず、悔しい思いをしていた。だから、勉強では絶対負けたくないという気持ちが強かった。国公立大学合格までは、2つの大きな山がある。1つはセンター試験。2つめは二次試験だ。部活動をやりきり、まずセンターに照準を合わせた。土日は9時から21時まで県図書に行き勉強する、「県図書12時間耐久」をした。きついなと何度も思ったが、49期の仲間が熱心に勉強する背中を見て、自分を奮い立たせた。受験とは、そういう意味で団体戦であると思う。夏が過ぎて秋に会い、そしてセンターの冬。模擬試験がどんなによかろうと、本番一発勝負。点数を取れなかった友達も多かった。自分も模試より40点下がった。志望校を変更する人も多かったが、僕は、C判定からの逆転を狙い、広島大学を受験することにした。二次試験は、それぞれの大学毎に分かれるため、心細かったが、試験前の登校日、互いを励まし合い試験に臨んだ。試験中の4時間、ペンを置かず書き続けた。そのおかげで合格できたと思う。そして、支えてくれた先生方、共励切磋した49期生、3年5組の皆、水泳部、いつも側で応援してくれた家族のおかげであると感じた。多くの人と出会い、中央49期生でよかったと本当に思う。これからの春も同じ思いを抱き旅立つ後輩であられる学校でありますように…。

受験を通して

奈良女子大学文学部

（担任のコメント）音楽部の部長としても、他の生徒から目標とされるぐらいの力のある生徒であった。特に国語力に優れ、センター試験後の学習に関しては、他の模範となる取り組みであった。

私は3年生になってからは、テスト範囲もきちんと通りきらずにテストを受けているような状態でした。成績は1年次からずっと落ち込んでいて、明らかに勉強量が少なくなっていました。しかし、それを、部活があるからしかないと考えていました。終わってから本気で集中すれば一気に伸びると思っていました。部活が終わり、夏休みにいつもより長く勉強すると、自分の予想より簡単に成績が伸びて、あ、これくらいで良いんだと油断しました。センターまで残り100日になったとき、目標の大学は少し厳しくなっていました。そして、勉強に集中することが非常に厳しく感じられるようになっていました。センターでは、やはり、3年の最初の模擬試験と同じくらいの得点しか取れませんでした。目標の大学に届かず、やむなく奈良女子大学に変更しました。それでも英語の筆記の判定がすごく悪く、2次試験は不安でした。だから、まず英語の何ができないか知るために全訳をし、分からないところを徹底的に考えました。英作文は、ほぼ毎日先生に添削していただきました。1日でも欠かせば、集中することがまた難しくなると思い、毎日必ず英文を家で読みました。後半には、自分でも驚くほど英語が大好きになり、勉強が楽しくなっていました。試験も、特に難しいと思うことなく、すらすらと解くことができました。英語にこれだけの時間をかけた分、国語を家でほとんどできなかったので、授業の時間をとても大切にしました。受験を通して学んだことは、学びを楽しむことの大切さ、授業の大切さ、先生方のありがたさ、親のありがたさ、継続は力なりという言葉の真実性でした。

合格体験記（5）

合格体験記

香川大学農学部応用生物科学科

（担任のコメント）的確な自己分析に基づき、自身の学力を冷静に判断しながら、正しいと信じる方法で正しいと思われる方向への努力を継続することで、夏休み以降に大きく成績を伸ばした生徒である。

僕が国公立大学に合格できた要因は、①センター試験に、点数の取り方を考えて臨んだこと。②二次試験で勝負できる得意教科を作っていたこと。③センター試験の点数と二次教科をよく分析したうえで受験大学を決めたこと。の3つだったと思います。

①センター試験の取り方では、僕は苦手教科を克服することよりも、取れる点数を落とさないこと、取れるところで点数をとることを意識しました。苦手教科の勉強はやる気もあまり起こらないので、簡単なところ、基本的なところを中心に勉強して、ある程度取れるようになったらそこまでを確実に取れるような勉強をしました。あとは自分の得意教科・好きな教科を中心に勉強して点数を稼ぎました。

②得意な教科は1つか2つ以上あると、大学を選ぶときに役立ちます。得意教科は勉強しやすいと思うので、メインで勉強して、早い内に力をつけておくと良いです。

③受験校の決め方は、僕自身はとにかく国公立大学に行きたかったので、二次試験の教科や大学のランクで決めました。大学を選ぶときには、僕のようにとにかく国公立大学に行きたいという人にはお勧めです。

今までのことを簡単にまとめると、センターでは取れる点を落とさないこと。得意教科を伸ばす勉強を早めに始めること。受験校は分析をして自分に見合ったところを決めることが大切だということです。

合格体験記（6）

受験を終えて

九州大学工学部機械航空工学科

（担任のコメント）明確な目標を持つことでモチベーションを保ち、高い学力をつけた。部活動と学習を高いレベルで両立させ、常に目的意識を強く持って努力した生徒である。

「これは確実に落ちた」この台詞は、二次試験を終えた後、真っ先に思い浮かんだものです。大学受験は、自分が想像していた以上に過酷なものでした。

合格体験記（7）

受験を終えて

九州大芸術工学部工業設計学科

（担任のコメント）常に安定して、自分のやるべきことに着実に取り組んだ生徒である。当たり前のことを当たり前にやりきることが高い学力を身につけることに繋がるということを教えてくれた。

私はこの鹿児島中央高校に入学してすぐに進路学習が始まったとき、ついこの間高校受験を終えたばかりなのに気が早いだろうと思っていた。大学についても全く深く考えておらず、兄に相談したところ、私に合っていそうなところを勧められた。それが最終的に私の受験校になった。早めに目標を掲げておくことが、漠然と日々を過ごすよりもいい心構えができたと思う。私は、帰宅部だったこともあり、1・2年生の時には他の人より多くの時間を予習・復習に費やすことができた。そのおかげか、3年生になってからあまり苦しい思いをすることもなかった。そんな中でも、毎日毎日勉強漬けでもモチベーションを保つのは難しかった。しかし、そんな時に放課後を利用して、学習室に残って勉強したり先生に質問しているクラスメイトの姿を見て…みんなが同じように奮闘しているのだから自分も頑張ろうと励まされた。受験は団体戦だという言葉は、私は正直あまり信じていなかったが、受験を終えた今、振り返るとその言葉の本当の意味が理解できる。更に同級生だけでなく、先生方や家族のたくさんのサポートがあったからこそ、私は合格することができたのだと思う。受験期を経て、合格を経て、私は多くのことを学ぶことができた。そして、鹿児島中央に来てよかった、と言って卒業できたことを嬉しく思う。

合格体験記（8）

合格体験記

長崎大学工学部構造工学コース

（担任のコメント）部活動引退までは、学習時間も十分に確保できず目立たなかったが、6月以降、見違えるように変貌し。秋以降の模擬試験でも着実に成長を遂げた生徒である。

中央高校に入学したとき、正直ここでの勉強は楽勝だと思っていた。一年次の成績は上位で、二年次には目標としていた特別クラスに入ることができた。しかし、そこで気が緩み、課題の未提出は増え…部活動にばかり精を出すだけらしい高校生になった。もちろん、成績はみるみるうちに下がり…気づいたときには手遅れだった。

三年生の時、僕は普通クラスにいた。いわゆる「特クラ落ち」だ。その言葉は重くのしかかり、元クラスメートと顔を合わせるだけで気持ちが沈んだ。学校もサボった。父親にも怒られた。

転機が訪れたのは夏。部活動も終わり、「ここで変わらなければ、自分は本当にダメになる。」とはっきり感じ、勉強に取り組んだ。南橋北沢という環境次第で人は変わるといった意味の故事成語があるが、僕は違うと思う。It's up to you である。勉強するにせよ、運動するにせよ、遊ぶにせよ、選択するのは自分自身で、誰のせいにしてもいけない。なぜなら周囲の人は、励ますことはできても共に歩くことはできないからだ。高校生活では、正しい道を見極める知恵と、それを実践していく意思力・体力を練り上げて欲しい。